

ななかま

No.97

THE 50th
ANNIVERSARY



since 1973
B.S.MACHIDA13

2025年7月 夏号

スカウト活動に関して	中村育成会長	1 頁
夏キャンプを目の前にして	田地団委員長	1 頁
夏キャンプ案内図		2 頁
夏キャンプに向けて	ボーイ隊長	3 頁
ハンターゲーム開催される	田地団委員長	4 頁
ベンチャースカウトへの期待	ベンチャー隊長	5 頁
ボーイ隊感想文		7 頁
ベンチャー隊感想文		20 頁
ローバー隊感想文		24 頁

発行：日本ボーイスカウト東京連盟町田地区町田第 13 団 広報委員

- ※ 写真は BAND、13 団 HP、投稿から転載しました。
- ※ 作者本人の原稿通り記載してあります。
- ※ 次回、No.98 号ななかま発行は 10 月ごろ予定しています。

『スカウト活動に関して』

育成会長 中村 孝志

もうすぐ夏キャンプ季節がやってきます。スカウト達の楽しい活動が目に見えます。ハイキングや登山、ワクワクドキドキのきもだめしやキャンプファイヤー等々、盛りだくさんのプログラムが用意され、夢中になって取り組む姿は、リーダーも親も、とてもうれしく感じます。

子供の頃の自然の中での体験は、いつまでも心に残っていることでしょう。

仲間と話し合って協力する心。自然や美しいものに感動する心。スカウトたちの健全な心と体を育むことが、私達指導者の役割です。「入ってよかった」、「続けてよかった」とスカウトも指導者も感じられる活動を心かけたいと思います。

『夏キャンプを目の前にして』

団委員長 田地 司

今年も夏キャンプの時期がきました。昨年の会津からもう1年が経ちました。本当に時間が過ぎるのは早いですね。

今年は佐久平の湯ノ丸高原で行います。そう、スキー訓練で行ったところですよ。冬は一面の銀世界でしたが、夏は景色が一変します。高原植物が咲き誇り、都会では見られないコマクサの湿原があります。東京の暑さからは考えられませんが、夜は防寒着が必要なほど寒くなります。すでに、各隊は現地の下見を終え、プログラムを整えているところです。行きは各隊毎に新幹線を利用して佐久まで行き、帰りは皆でバスで帰ってくる予定です。

烏帽子岳、湯ノ丸山の登山や池の平湿原へのハイキング、そして、ちょうどこの時期にペルセウス座流星群がやってきます。夜はその流星群の観察をします。流れ星に願いをかなえましょう！ 今からその願いを用意しておいてください。最終日にはおなじみのバーベキューと夜は大營火で夏キャンプを閉じます。

夏キャンプはスカウトにとっては、1年の訓練の集大成です。これまでの訓練成果を思いきり発揮して大いに楽しんできましょう。ただ、日中はやはり暑いですから、くれぐれも熱中症などにかからないよう注意してください。

各隊の予定

ビーバー隊	8月14日～16日
カブ隊	8月12日～16日
ボーイ隊以上	8月11日～16日



上信越高原国立公園

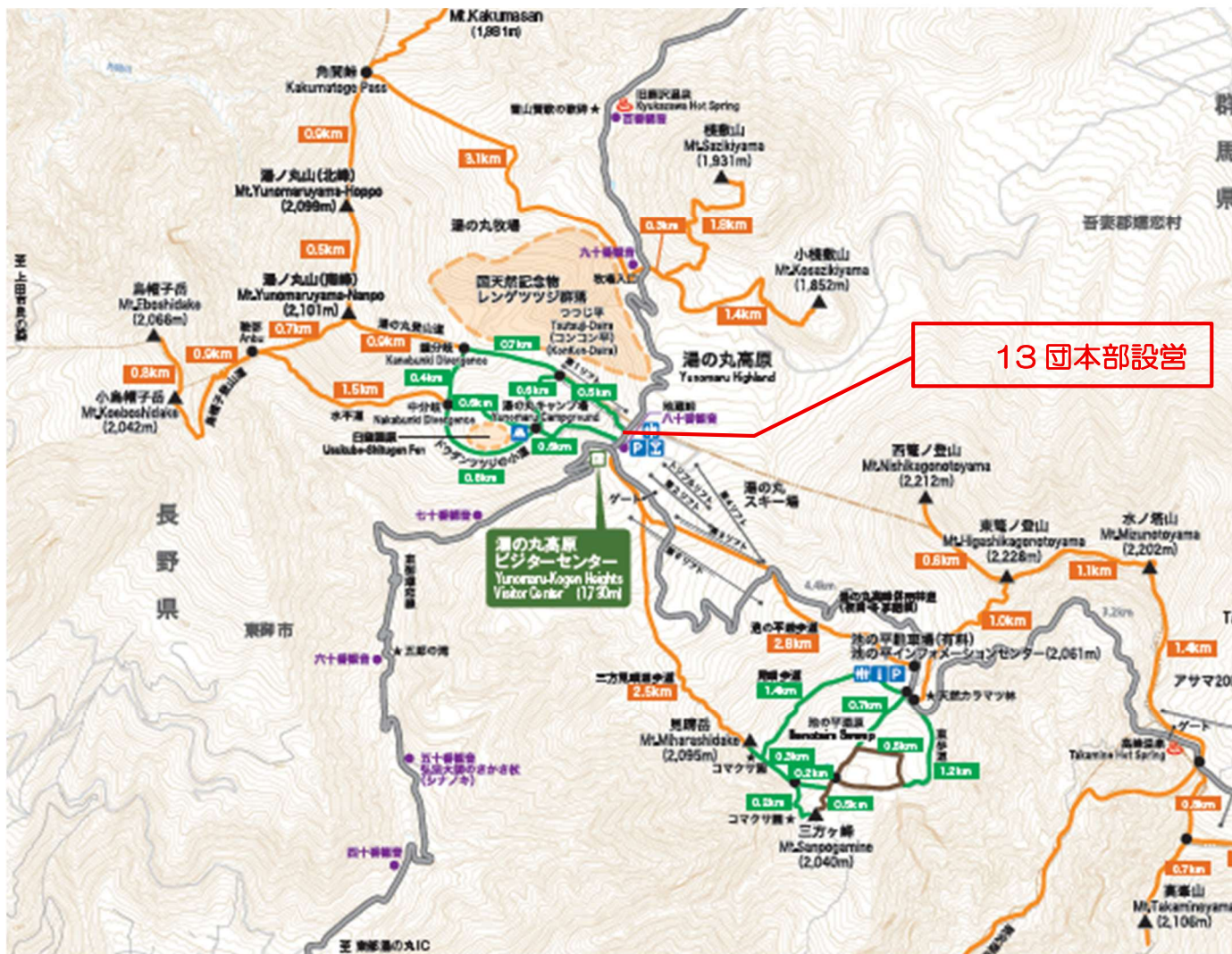
湯の丸高原

夏キャンプ案内図

<https://tomikan.jp/pamphlet/>

東部湯の丸 LC から
車で30分

別府の交差点を左折し新張交
差点から道路沿いに百体の
観音様が道案内しています。



『夏キャンプ向けて』

ボーイ隊長 廣石 透

今年の夏キャンプは、去年スキー訓練を実施した長野県東御市にある「湯の丸高原スキー場」にて5泊6日で実施します。昨年の金山町（福島県）と比較して標高が高く涼しいキャンプとなるのではと期待しています。スキー場の1つのゲレンデを町田第13団だけで利用するため、周りを気にすることなくキャンプ生活を謳歌してください。

夏キャンプは年間活動の集大成となるプログラムです。昨年9月から約1年間学んできた「技能や知識」、そして、班活動で学んだ「みんなで協力してやり遂げる力」を夏キャンプで実践してください。テント設営、たちかまど作り、炊事、ハイキング、営火、班の運営など今まで経験してきた取り組みの全てを夏キャンプで実践することができます。

今回とても楽しみなのは、スカウト自らが4日目のテーマを「野外調理で凝った料理を作る」と設定し、メニュー検討から調理までスカウトが実施することです。そば粉からそば打ちするなど検討しており、当日のできあがりがどうなるか楽しみです。

今回のキャンプは中学3年生の菊スカウトにとってはボーイ隊としての最後の夏キャンプとなります。4年間ボーイ隊で学んだことを振り返り、スカウトとしての考え方や技能を後輩たちに引き継いでください。後輩を見守り、時には自ら手本を見せてください。また、2級スカウト以下のメンバーは先輩達をうまく活用してください。単に言われたことをやるのではなく「なぜなのか」を考えながら積極的に取り組んでください。今回は宮下君、佐藤君にとっては初めての夏キャンプとなります。皆で励まし合いながら、体調管理・怪我への備えなど、「安全」に気をつけて最高の夏キャンプにしましょう。



『ハンターゲーム開催される』

団委員長 田地 司

2月に予定されていたハンターゲーム（BP 祭）が荒天で延期となり、4月27日に「こどもの国」で開催された。13団ローバー隊の仕切りのもと、参加団は町田1団、6団、9団と13団の4個団、総勢140名を超える大きなイベントとなった。

近藤地区委員長から「町田地区でこれだけ大人数が集まるのは久しぶり。日頃の訓練の成果を大いに発揮して楽しんでもらいたい」との挨拶から始まり、13団佐藤君の入隊式を行い、無名戦士の像の前でRS隊宮本君から戦時下の逸話を聴き、縦割り班の編成後ゲーム開始。

「三角法や体を使った高さの計測」「キムスゲーム」「いかだ乗り」「方位測定」「ロープワーク」「手旗」「ソング」「救急法」をハンターの追跡を避けながら各課題に挑戦。

全員がゴールしたあと、昼食をとり、こどもの国ソフトクリームを頬張り解散となった。

今年で4回目のハンターゲーム、回を重ねるごとに盛りだくさんとなってきている。



『ベンチャースカウトへの期待』

VS 隊 隊長 永山 雅人

PDCA を回せ

BS 隊時代から PDCA を回せと教育を受けていることは知っています。

P(Plan、計画を立て)、

D(Do、実行する)、

C(Check、確認、振り返りをして)、

A(Action、次への行動を考える)

に基づき行動できるようになってほしいと思っているが、Do はできても、他はまだまだの状態が高1が始まった。

頭ではわかっていて、実際やればできるのは事実。しかしながら、計画を立てることができない。頭の中にあることを形にすることができない。形にできない悔しさを感じているのであれば、それが向上へのエネルギーになると思っている。

Do だけできる状態では BS 隊と大差ない。自ら計画するところに VS 隊の意義がある。

失敗すればいい

失敗することを恥ずかしいと思っていたり、せっかくやるなら成功させたいとおもっていたり。実行するのだから良い結果を得たいのは、人なら当然。

だが、年齢とともに責任はどんどん重くなり、失敗は益々許されないのが人の性。

そうであれば、高校生の失敗なんて大したことない。本人は恥ずかしいのかもしれないが、大人から見れば大したことはない。十分フォローができるから、失敗してもいいから思いっきりやって欲しい。

失敗から学ぶことがあれば、新たな引き出しを作れることになる。それは将来に役立つ宝。

実際、自分の経験から言うと、成功より、失敗からの方が学ぶことは多いと思う。

目的を持って

やりたいことを見つけることこそ、PDCA を回す原動力だと思う。

スカウトに向けて何回か言っていることは、同じ場所で活動をしていたとしても、一人一人違ったことをやっていいし、そうやることは可能。

実際に 2024 年の 5 月キャンプでは、夜は一緒だが、日中はラーメン作りをやりたい班とハイクをやりたい班に分かれて活動を行った。

最近、ようやく、それぞれのやりたいことが見えて来たように感じる。

やりたいことを見つけて、それを達成する道のりをつくり、ゴールにたどり着けることを期待します。

富士章は、そこにある

目的を持ち、そこに行くためのルートを検討し、計画について段階をつけながら立て、1つずつ実行し、実行後改善を考えながら次の段階に進む。

まさに、PDCA を実行し続けていけば、ゴールは、自然と富士章になる。

ボーイスカウト最高章となる富士章であるが、13団であれば、やればできる、手の届く章だと思う。ただし、自らが動かない限り、章から寄って来ることはない。

富士章だけじゃない

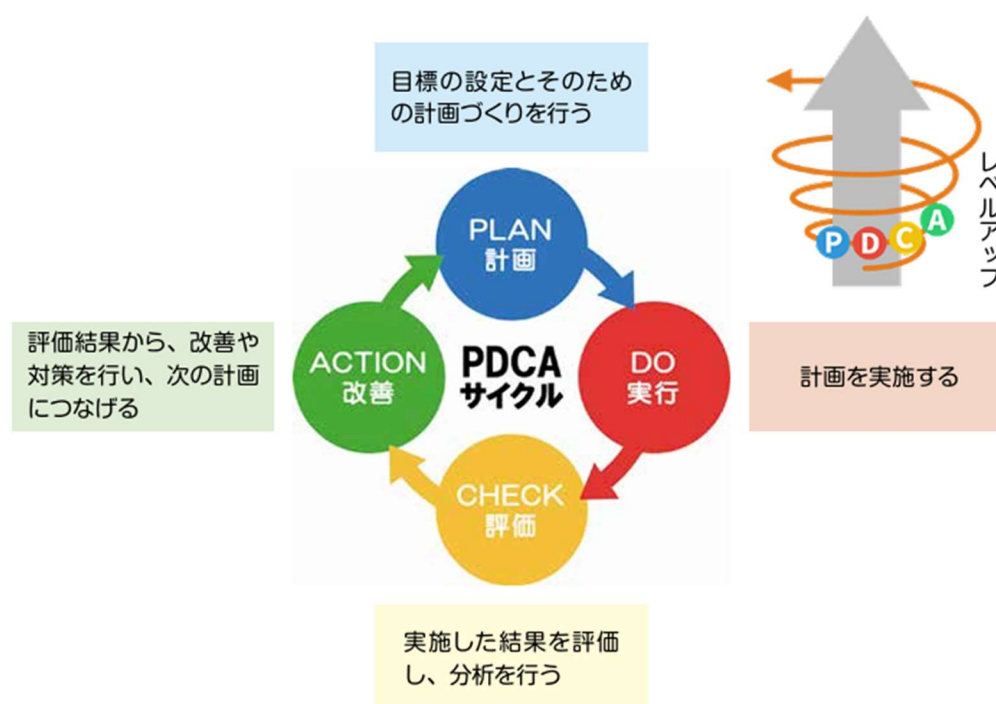
富士章を取ってもらいたいために、活動しているわけではありません。

VS 隊の活動をとおして経験していることは、このあとの人生において役立つことがわかっているからです。

直近で言えば、AO 入試での作文（論文）、入試のみならず今後度々あるであろう面接での受け答え、プロジェクトを進めることができた経験は、社会人になってからのプロジェクトでも活きるし、それをリードできる人であれば、より重宝される人になります。

ボーイスカウトでの活動は、言われたことならできる人ではなく、自ら世の中を回して行く人になることができる能力を身に着けさせてくれます。

高2の間にPDCAを回せるスカウトになることを期待します。



出典； <https://www.mhlw.go.jp/content/000812225.pdf>

ボーイスカウト隊 感想文

2025年（R7）

1月25日～26日 BS 隊耐寒キャンプ 柳島キャンプ場
3月15日～16日 BS 隊3月隊キャンプ 小野路キャンプ場
4月5日 BS 隊大山登山 大山
4月12日～13日 BS 隊オーバ-ナイトハイク 井の頭公園⇒こどもの国
5月3日～5日 BS 隊5月隊キャンプ 清水市東光寺敷地
今年前半の隊活動についてスカウトの感想文を紹介します。

『耐寒キャンプ』

BS 隊バイソン班 佐々木 海利

今回の耐寒キャンプでは、江の島の海岸近くのキャンプ場に1泊し、翌日に海岸沿いを10キロほどハイキングしました。

寒さの中でのキャンプでしたが、しっかりと準備をして臨んだため、大きな問題もなく非常に充実した時間を過ごすことができました。キャンプでは、初級スカウトたちも積極的に活動し、料理やテント設営を楽しんでいました。

寒さ対策として、温かい食事を作る工夫をしたことで、体も心も温まり、夜も快適に過ごせました。

翌朝のハイキングは、海岸沿いの景色を楽しみながら進みましたが、長距離を歩くこともあり、少し大変に感じる場面もありました。

今回のキャンプを振り返ると、事前準備をしっかりと行ったことで快適に過ごせた反面、少し準備をしすぎたために荷物が多くなり、ハイキングがきつくなってしまいました。キャンプの目的や環境に応じた適切な準備が大切であると改めて感じました。今後のキャンプでは、必要な装備を見極め、より効率的な準備を心がけたいと思います。

『耐寒キャンプ』

BS 隊バイソン班 廣石 權

今回はほぼ班長になって初めてのキャンプでした。班長ということで後輩たちをまとめるリーダーシップが必要だと思い、ハイキングでは後ろの後輩たちを良く確認して動いていました。ですが、キャンプでは後輩に指示を出すことを佐々木さんに任せてしまったことが多々あったので、班長としての責任を持ちながら頑張っていきたいです。

実は今菊章を受けとった後にこの感想文を書いています。その面接の際、後輩たちを夏キャンプまでに自分たちが何もしなくても良いくらいに育てろと言われました。

今回のキャンプでは、あまり後輩の技術向上を意識していませんでしたが、指示をしていく上でそのような所も成長したと感じました。最近後輩がどんどん増えてきているので、スカウト技能の面白さや意識面でスカウトとはどんなものか伝えていけたらなと思っています。もちろん私も日々成長していきたいです。



『耐寒キャンプ』

BS 隊バイソン班 佐々木 大和

僕はボーイスカウトの冬キャンプに参加して、2日間のキャンプを過ごしました。

このキャンプでは、自然の中で仲間と協力して過ごし、たくさんの思い出を作ることができました。特に、友情や協力の大切さを学んだことが印象に残りました。

キャンプの1日目、僕たちは電車で目的地に向かいました。駅に到着した後、そこから約1時間かけて歩いてキャンプ場に向かいました。歩きながら、海が見える景色がとてもきれいで、冬の澄んだ空気が気持ちよかったです。

キャンプ場に着いた後、まず昼ご飯を食べました。おにぎりを食べて、お腹を満たした後、みんなでテントを建てました。冬のキャンプは寒いので、テントをしっかりと建てるのが大切です。みんなで協力してテントを建て終わると、少しホッとしました。その後は海岸を散策しました。海の風景を楽しみながら歩き、日向ぼっこをして、体も心も温まりました。寒い日だったけど、自然の中で過ごす時間はとてもリラックスできました。

夜ごはんはカレーを作りました。みんなで協力して材料を切り、カレーを煮込んで、おいしいカレーが完成しました。寒い中で食べる温かいカレーは格別で、みんなで楽しく食べました。

セッションでは天体観測やスモアをしました。天体観測では隊長がわかりやすいスマホのアプリを使わせてくれて普段できない体験ができました。また、瀧本リーダーの宿題もクリアすることができました。

2日目の朝は、温かいうどんを食べて元気を出しました。その後、早朝に日の出を見ました。寒かったけれど、朝日が昇る瞬間はとてもきれいで、みんなでその美しい景色を楽しみました。その後、ハイキングに出かけました。ハイキングは少し大変でしたが、みんなで協力して進んでいきました。途中で疲れることもありましたが、仲間と声を掛け合いながら、無事に目的地に到達しました。しかし、乗る予定だった船が強風のため乗れなかったので残念でした。帰りの道でも、みんなで協力しながら無事にキャンプ場を去ることができました。

この冬キャンプでは、仲間との協力がとても大切だということを学びました。テントを作ったり、カレーを作ったり、楽しいセッションやハイキングをしたりする中で、みんなで助け合いながら楽しい時間を過ごしました。寒い中でも、みんなの協力があったからこそ、素晴らしいキャンプになったと思います。次回もまた参加したいと思います。



『三月キャンプふりかえり』

BS 隊バイソン班 佐々木 海利

今回のキャンプでは、スカウトとしての基本技能を学ぶため、立かま作りや、個人テントの設営等、実践を通じたセッションを多く行いました。初級スカウトは熱心にとりくみ、少しずつ技術を身につける様子がみられました。一方で、私自身の準備不足が指導に悪影響を及ぼした場面もありました。制服や雨具を忘れてしまった事で雨天時に体力と判断力が低下し、撤営時のミスがとて多くなってしまうと感じています。しかも、そのミスの大半を初級スカウトの前でおかしてしまい、班長としての甘さを痛感しました。

今回の経験を通して、まずは自身の準備を整え困難な状況でも冷静に対応できるよう努める事が何より重要だと学びました。次回のキャンプでは、忘れ物を防ぐ工夫をし、初級スカウトの模範となれるよう努力したいです。



『3月キャンプ』

BS 隊バイソン班 佐々木 大和

今回のキャンプでは辛いことや初めての体験を通して色々なことを経験しました。

まず、タープを初めて自分で設営できたことが嬉しかったです。最初はどうすればいいのかわからなかったけれど、先輩に教えてもらい無事にたてることができました。そして、後輩の宮下くん個人テントでの自分の失敗を教えながらテントのたて方を教えることができたのも良い経験でした。

自分のことを進めながらも、先輩としてしっかり教えることができて少し自信がつきました。また、夜ご飯のパエリアがとても美味しかったことも嬉しかったです。ご飯の時間みんなが喜んでいて、楽しい食事になりました。

料理を極めている先輩を見習って、僕が最年長になったときにも後輩たちにおいしい料理を振る舞いたいです。

ただし、このキャンプでは雨対策をしっかり考えていなかったため、二日目に撤営する時にとても辛い思いをしました。寒くて指先がかじかんでしまい、自分のことで精一杯で、他の人の手伝いができなかったのが反省点です。次回はもっと雨対策をしっかりし、失敗のないようにしたいと思います。

これからは自分のことだけでなく、もっとみんなのことを優先できるようになりたいです。そして、先輩としての自覚を持って、もっと周りに気を使って行動できるようにしたいと思います。今回のキャンプで学んだことを次に活かせるように頑張りたいです。自分の失敗で辛いことが多かったけれどとても良い経験でした。

『三月キャンプ』

BS 隊バイソン班 廣石 權

今回は二級以下のスカウトの技術向上を目的としたキャンプということで基本的な技術をできる限り伝えました。後輩も増え、かなりボーイスカウトも活気づいてきたと思います。ですが、今残っている一級以上のスカウトが全員来年にはベンチャースカウトになってしまいます。それまでの期間でどのように後輩たちを育てていくかが非常に重要だと思います。なので、後輩たちにもわかりやすいよう噛み砕いて教えることができたかなと思います。また、後輩たちが今後良い先輩なるには、自分たちが良い見本を見せなければならないと思います。まだ他の人と比べ至らない部分も多くあります。(国旗儀礼など) そのような所を少しでも少なくしていくことが、自分たちの成長、果ては後輩たちの成長につながっていくと思います。引き続き、頑張っていきます。



『大山登山ふりかえり』

BS 隊バイソン班 佐々木 海利

今回の大山登山では、電車移動時に通勤ラッシュと重なりましたが、周りへの配慮を忘れず、班で落ち着いて行動できました。登山では、上級スカウトとして先発し、水分補給や歩くペースなどを上手く工夫したことで無理なく登頂できました。その経験をもとに、下級スカウトに適切なアドバイスを行い、全員が無事に山頂にたどり着くことができたのは大きな達成感につながりました。また、下山時に宮下君が、足が震えるほどの疲労を感じながらも、登山の辛さと楽しさを同時に語ってくれたことも大きく印象に残っています。

この登山を通じて、自然の中での協力や気配りをする事の大切さを改めて実感しました。上級スカウトとしての役割への自信も高まったので、これらの経験を今後の活動に活かせるよう、努力したいです。

『大山登山』

BS 隊バイソン班 廣石 權

今回はカブスカウトと合同で大山に登山しました。自分は体力的にはあまり疲れていなかったのですが、どんどんと先に行ってしまうことがありました。次長とも大きく離れてしまっていたので、もし後ろをついてきている子たちが自分のペースについていこうとして怪我をしてしまったら、自分が見るか次長が見るまでそのままになってしまいます。他の子たちのことを考えてハイクをすることが、安全にハイキングするために重要なことだと今回で学ぶことができました。後輩のボーイスカウトはカブスカウトを見てくれながら後からついてきてくれました。そのような部分が自分に足り無い所かなと感じます。これから2ヶ月程度班長をすることになっているので、せめてその間だけでも、班長として責任を果たし、後輩たちの手助けができればよいなと思っています。



『オーバーナイトハイク』

BS 隊バイソン班 佐藤 翔太

今回のオーバーナイトハイクでは、夜通し約 30km を歩きました。スタートした時は元気があり、「まあ何とかなるだろう」と思っていました。でも、時間が進むにつれて体も足もどんどん重くなっていきました。

特に真夜中をすぎたあたりからは、ねむけと疲労が一気に押しよせてきて足を前に出すのが本当にきつかったです。歩いている間にも道の雰囲気や周囲の景には意外と変化がありました。街灯のある明るい道もあれば、民家の少ない暗くてしずかな場所をとおると少しほっとしました。そんなちがいがあったおかげで単調すぎずにさいごまで気を保つことができたと思っています。

ゴールについたときにはとにかくほっとしました。すわった瞬間、足のいたみやつかれが一気にでてきましたが、「よくここまでついたな」と思えるくらいには自分をほめたくまりました。もう一度やりたいとはあまり思いませんが、この経験は思い出としてはちゃんとのこるきがします。

『オーバーナイトハイクで感じた事』

BS 隊バイソン班 佐々木 大和

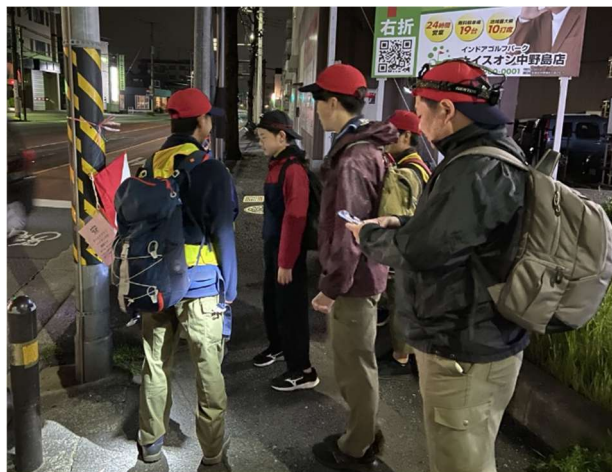
ぼくはオーバーナイトハイクで感じた事がたくさんあります。ゴールをスーパー三和あたりとして、約30km歩きました。

歩きはじめは元気でしたが、時間がたつにつれ、だんだんとねむ気とつかれがおそってきました。夜の町は静かで人も少なく歩きやすいのですが、それがよけいにねむ気をひきたてました。

休けいの時の水やあめがとてもおいしく感じられました。班員のさとう君は初めてなのにも関わらず、弱音一つはかずにスイスイと歩きつづけてすごいなと思いました。

知っている道のあたりから足がいたくて止まりたくりましたが、班員たちと声をかけあいながらなんとか完歩する事が出来ました。

このハイクをとおして、あきらめずにどりよくする事の大切さを学びました。日常でもこの体けんを思いだして自分に自しんをもてるようにしていきたいと思いました。

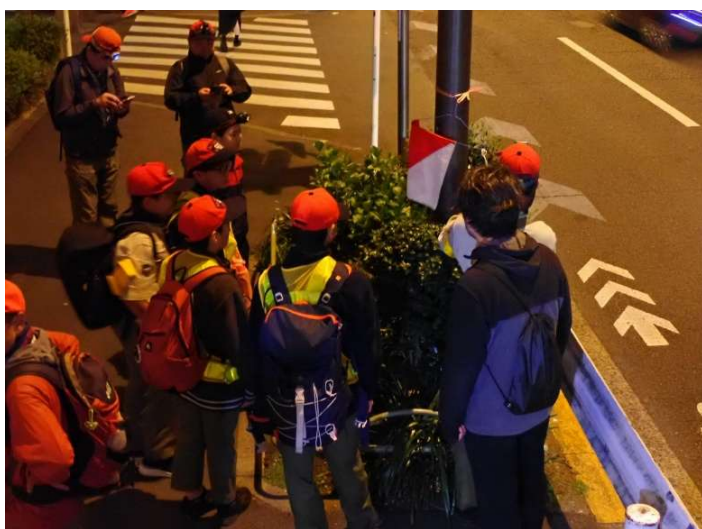


『オーバーナイトハイクを終えて』

BS 隊バイソン班 佐々木 海利

今年のオーバーナイトハイクは、僕達にとって、これまでの経験をさらに深める挑戦となりました。約三十キロの道のりを班で歩ききった事で、僕たちの成長を確認できる大きな達成感を感じました。僕は次長として班長をサポートし、班全体の様子を把握する役割を担いました。何度も参加している僕にとって、地図の確認やタイムキープは体に染みついています。休憩のタイミング等を的確に伝え、班のリズムを管理しました。夜通し歩くのは何度経験してもきついですが、僕は「必ずたどりつける」という確かな経験があり、この確信が僕と班全体を支える力になったと思います。

今回のハイクを通して、僕は次長としての役割を理解し、経験を活かすことの重要性を学びました。これからも、困難に仲間と共に立ち向かえる存在でありたいです。



『オーバーナイトハイク』

BS 隊バイソン班 廣石 權

今回のオーバーナイトハイクは、自分にとっては初めての後輩がいる状態でのハイクでした。特に佐藤くんや宮下くんのような経験の浅いスカウトもいたので、歩くスピードを少し落とせばより楽しくハイクができたのではと反省しています。班長として身の回りの安全など確認しなければならない部分を見逃してしまい、リーダー方に迷惑をかけたこともありました。班長ができるのも残り数か月なので、色々なことを学び取っていきたいです。前回、前々回よりもあまり疲れていませんでした。体力の向上を感じて嬉しいです。

佐藤くんは今回がほぼ初めてのハイクなのに完走していて、感動しました。ただ、歩ききった後に足が動かないと言っていたので、無理に歩かせずに、ほどほどの地点でやめさせておけば良かったのかと少し悩みました。次回も続けて歩けるかはわかりませんが、できる限り参加したいです。

『スカウト活動 オーバーナイトハイクについて』

BS 隊バイソン班 荒 旬之輔

先日、ボーイスカウトの活動でオーバーナイトハイクに参加した。吉祥寺から神奈川県の子どもの国の近くまで、約 40km を夜通し歩いた。実はこのハイクは初めてではなく、前にも参加したことがあるが、やはり長距離を夜通し歩くのは大変だった。

今回のルートは小田急線沿いで、歩きながら見える駅の名前に何度も助けられた。知っている駅の名前が出てくるたびに「もうすぐだ!」とワクワクしたが、実際につくまでには思っていたよりも距離があり、がっかりすることもある。

歩き続けるうちに話すこともなくなり、眠気と疲れで意識がもうろうとしてきた。歩きながら寝てしまいそうになったこともあり、まっすぐ歩くのもやっとだった。

ゴールにたどり着いたときは、意外とあっさりしていて、達成感よりも「終わったのか?」という実感のなさの方が強かった。でも、家に帰ってふと考えたとき、自分が 40km 歩ききったことを思い出し、じわじわとうれしさがこみ上げてきた。



『五月のキャンプでの感想・反省』

BS 隊バイソン班 佐々木 大和

五月の中ごろ静岡で二泊三日のキャンプを行いました。五月のキャンプ地は、海とお寺の近くにある小さな山でお寺のお坊さんが特別に貸してくれた場所です。自然が豊かでキャンプがとても楽しく感じられました。

一日目はテントを設営し、立ちかまを作りました。三きゃくの立ちかまは小さいものの安定感がありとてもべんりでした。

二日目の朝にはお寺でめいそうをさせてもらいました。さいしょは静かに目を閉じていれば良い物だと考えていましたが、いざやってみると、くんでいる足がいたく、こきゅうを整えるのも困なんでとてもむずかしい物でした。ですが初めての体けんでとてもきょううな時間でした。午後には港へハイクに行き、カブのツキノワと合流しました。ハイクのおわりには、スーパーにより魚介を買いこみ夜には静岡の魚たちを海鮮丼で楽しみました。とても新鮮でおいしく、カブも喜んでくれました。テントでは自分が中心になってカブの面どうを見る事ができ、良かったです。

ただ、反省点もあります。後輩が刃物を使っている時に少し使い方が荒かったのですが、すぐに声をかけられなかったことです。けがにつながる事なので次回はもっと注意深く見守りたいです。また、三日目の朝、荷物の片づけに時間がかかり、出発をおくらせてしまったのも問題でした。次は時間を意識して、早めに片づけておくなど工夫をしてキャンプにとりくみたいです。

五月キャンプは自然ゆたかな場所です。ごすたのしさと自分の行動を知る大切さも学びました。この経験を次の活動にも生かしていきたいと思います。



『五月キャンプふり返り』

BS 隊バイソン班 佐々木 海利

僕にとって、今回の隊キャンプは、次長としての学びを多く得る素晴らしい物でした。

設営初日、竹で食器を作るなど創意工夫はできたものの、時間管理の甘さが出てしまい班全体を円滑に動かす難しさを痛感しました。

二日目の座禅体験は心洗われる素晴らしい経験になったと思います。また、ハイク後の海鮮丼は格別で、達成感を全員で分かち合うことができました。最終日の撤収では、皆が時間意識を持ってスムーズに行動できていたことに、班の成長を感じ、僕自身も、積極的な声かけで効率が上がったと実感しています。

今回の経験から、円滑なコミュニケーションと時間管理の重要性を学びました。次長として、指示だけではなく、班員の状況把握と、サポートが求められると感じています。この学びを活かし、今後も先輩として、後輩の自主性を促せるよう努力したいです。



『5月キャンプ』

BS 隊バイソン班 廣石 權

今回は、後輩たちにとってはほぼ初めての三日間のキャンプになりました。人数は少なくなりましたが、みんなキャンプを楽しんで終わることができたかなと思います。自分は班長としてやるべき事をきちんとやるのが大切であると学びました。忘れ物や、指示不足という事態もこのキャンプ中に何度か経験しました。これからはそのような事が無いように、日々気を付けていきたいです。二級スカウトは新たに初級スカウトが来てくれたことによって、学ぶことが多かったと感じます。ハイキングの際はカブ隊と合流して、楽しむことができたと思います。新しいスカウトも段々とスカウトに馴染んでいる感じがあります。このままスカウト活動を楽しんでいってほしいです。後三か月で夏キャンプが始まってしまうので、後輩に色々な事を教えていきたいです。





東光寺
<https://tokozenji.net/>

ベンチャースカウト隊 感想文

『ベンチャー隊としての責任』

ベンチャー隊 佐々木 永遠

活動を振り返って

2025年が始まってからベンチャースカウトとして、1月の雪中キャンプをはじめとした、3月の料理キャンプ、オーバーナイトハイク、5月キャンプなど様々な活動に取り組んできた。個人的には測量章の講習のために勉強をし、その努力が実ったことが印象に残っている。

高校2年生になり、僕たちはそれぞれの生活が去年と比べさらに忙しくなった。ベンチャー隊は同学年のスカウトのみで構成されておりなかなか予定が合わないこともあったが、忙しい中でも時間を調節し、充実した活動ができていると思う。これから迎える夏キャンプに向けても、スカウト同士の話し合いや準備の時間が増え、これまで以上にお互いの連携が大切になってくると思うので精進していきたいと思う。

活動のやりがい

どの活動にも共通して感じたのは本番より準備の方が大変だったことだ。ベンチャー隊2年目でありながら、慣れてきたとはいえ、計画の見通しの立て方やタスクの分担には今も課題を感じる。実際、今年の夏キャンプの計画も苦戦しており、話し合いをより加速させなければいけない状況にある。

3月や5月のキャンプでも自分が中心的に計画したわけではないが、役割分担や予定の細かい調整など、計画時に工夫しなければならないことがたくさんあった。準備の段階からチームの一員として責任を持つということを学んだ。

とても大変なことではあるが、それでも活動が終わると「しっかり計画してよかった」と思えるし、実施した後の計画の課題や、計画の大切さを実感する場面が何度もあった。

4月に行われたBP祭では、ベンチャー隊はハンターとして参加させていただいた。4月でありながら気温が高く、継続して走るのはとても大変だったがハンターゲームの最中にスカウトの楽しそうな表情を見た時、小さなことかもしれないが、確かなやりがいと嬉しさを感じた。ベンチャー隊になってから上級生としての責任と他隊との活動がより濃密になっていると感じている。

決断すること

特に印象的な活動は5月キャンプ内での出来事だ。5月キャンプの2日目の夜、ベンチャー隊にとって大きな判断の場面があった。予定されていた大営火が、強風の影響で中止

になる可能性があり、代替案を考えるように任されたのだ。午前中はハイキングをしていたため、その間は大営火の内容を考えるだけで精一杯だった。しかし、カブ隊とボーイ隊が楽しめて、スペースの制限も考慮した実現可能なできるような案を出すことは難しかった。

そして、ハイキングから戻ったときに、いよいよ風が強くなり、火を使うことは危険と判断され、大営火を中止するかどうかの最終判断を私たちが下すことになった。中止する場合は空いた時間をどうするか、続行する場合も強風を考慮しなければならず、苦渋の決断だった。

そのキャンプサイトの特徴としてたくさんの竹が生えていたことを思い出し、リーダーや隊長と話し合い、安全を確保できると判断した上で、竹細工を通した「刃物の使い方セッション」を実施することに決めた。本来は安全面から候補に入っていなかった内容だったが、限られた状況の中で、後輩にとって有意義な時間を作りたいという気持ちが強くあった。

内容を考える時間も少ない中で、本番では「本当に楽しんでもらえるのか」「安全に進行できるか」「正しい知識を伝えられるのか」など、多くの不安を感じた。しかしリーダー方の協力もあり、誰も怪我なく無事にナイトセッションを成功させることができた。カブ隊やボーイ隊から「楽しかった」と言ってもらえたときは、本当に安心し、心から嬉しく感じた。

この経験を通して、上級生としての自覚がより一層強まったと思った。完全に一人でやりきれたわけではないが、手助けを受けながらも自分たちで判断し、行動し、後輩たちに楽しい時間を提供できたというのは、スカウトとしての成長を実感できた瞬間だった。

今後も、年齢を重ねるにつれて選択が迫ったり、責任を感じる場面がふえていくと考えられる。仲間や後輩にとって安全で楽しい活動を届けるために、自分の判断に責任を持ち、しっかり考えて行動できるスカウトを目指していきたい。

今後の目標

目前の大きな目標としては夏キャンプだ。前述した通りまだまだ計画ができていない状態で、正直不安もあるが、これまでの経験を活かして例年を超える夏キャンプを作りたい。また、隼章に向けての活動も先延ばしになってしまっているのでより動きを加速させて、隼スカウトまで上り詰めていくつもりだ。隼章の取得は、今までの活動の集大成として、自分の努力の証にしたいと思っている。それぞれのスカウトが忙しい中、積極的に活動してくれているので自分もスカウトとしての自覚を持ってファーストペンギンとしてベンチャー隊の活動に拍車をかけていきたいと思う。

『スカウト活動に「貢献する」ということ』

ベンチャー隊 宮澤 陸人

私がボーイスカウトを続けてきた中で、ここ最近が最も活動に参加できていない時期といっても過言ではない。(ただし休隊していた期間は除くが) 私が参加できた数少ないスカウト行事は、4月に行われた「さくらまつり」とこどもの国で行われたBP祭の「ハンターゲーム」。どれも自らが企画したことではないにしろ、団に貢献できる良い機会として積極的に活動に参画することができた。この作文では、この2回の団行事についての振り返りをしてみたい。

4月のさくらまつりはあいにくの雨模様だった。お祭りの利益が団の活動費となるだけあって、団全体の活動の質を高めることのできる良いチャンスであった。お店に来る人はまばらであっても、お店に足を運んでくださった方にはスカウト精神の通り、礼儀正しく、快活な姿を見せることができた。

少し心残りがあるとすれば、「もっとボーイスカウトのことを広く知っていただければよかった。」ということである。ボーイスカウトの活動は、楽しい活動もあれば、自分自身を鍛え、律することを目的とした活動もある。そんなスカウト活動の魅力をもっと伝えることができればよかったと考えている。

地域の方々のご協力で活動することのできるイベントも多くあるからこそ、このお祭りのような地域密着型の活動をこれからも展開しつつ、地域の方に恩返しができるような企画をベンチャー隊でやってみるなど、工夫をしてみたい。「日々の善行」をしていれば、自然とボーイスカウトの活動に興味を持ってくれる方が増えると思う。スカウト活動をかけがえのない仲間と共に続けていくためにも、我々スカウトと地域の方々Win-Winの関係であり続けられる活動を行っていきたい。

続いてはBP祭について。団を超えての交流が久しぶりだったこともあり、最初は少し緊張しつつも同じスカウト同士で語らうことで、親睦を深める良い機会とすることができた。目玉企画の「ハンターゲーム」では、ハンター役としてこどもの国を練り歩いた。ハンターが縦割り班を捕まえたとき、「スカウトソングを一曲歌う」というミッションがあった。ここで私は「団を超えたスカウトの輪」を感じることができた。違う団で名前も知らないような子であっても歌詞がわからなければ誰もが教え合い、先輩スカウトや後輩スカウト関係なく仲良く歌う。このゲームの中の何気ないミッションの中ではあったが、さりげないところでのスカウト精神の実践を身近に感じることができた。自分も同じ団の下級スカウトの奉仕活動などで、さりげない気遣いや心配りをしてあげられるといいと感じるような、とても心温まる時間だった。

さて、「さくらまつり」と「BP祭」の2点についてまとめて、「スカウト活動に『貢献する』こと」とは何なのかを考えてみた。普段では多忙で活動に十分参加できなかったとしても、時間ができた際には活動に足を運んで、「他のスカウトの支え」として、「縁の下の力持ち」として活動に参加することも大事だと感じた。どうしてもキャンプやハイクな

どは計画書を作るなど断片的にしか携わることができない。しかし、自分のできることを見つけて精一杯頑張ることや、他のスカウトを応援することならできるはずである。もちろんスカウト活動と勉強などの両立ができることがベストではあるが、それが難しい今、新たな形でスカウト活動に取り組む意義を感じつつある。



ローバースカウト隊 感想文

『五月キャンプでの経験』

ローバー隊 木下 誠

私は今回、ボーイ隊、ベンチャー隊、月の輪スカウトとともに5月キャンプを行った。ローバースカウトとなってからは初めてのキャンプである。

今回のキャンプでは新たな試みとして、テントを持参せずに参加した。調理器具なども現地調達し、装備は最小限に絞った。代わりに、東光寺の住職の方のご厚意で伐らせていただいた竹を利用し、寝床や食器を作成した。

キャンプを行う前、家でパッキングを行っていた時、あまりの荷物の少なさに私は少し不安になった。事前に計画し、必要なものをすべて揃えたとは分かっているが、何か忘れていたものがあるのではないかと気になって、出発前にも何度も確認した。しかし、終わってから振り返っても、持ち物はかなり洗練されていて、忘れ物等も特になかった。

キャンプ場到着後、すぐに作業に着手した。まず最優先で作成したのはベッドであった。これがなければ夜を越すことができない。正直、作業にどれほどの時間がかかるのかは未知だったため、最低限ベッドだけは作ることを目標とした。

竹を伐採するのは初めてであった。事前に調べた伐採方法の通りにノコギリを入れ、切り倒した。倒す方向をしっかりと決めないと引っ掛かってしまったり、人の方向に倒れてしまう可能性があり、初めての伐採はとても緊張した。しかし、それと同時に、私はとても楽しんでいった。いつか竹を利用してクラフトをしてみたいと思っていたため、その夢が叶うと思うと胸が高鳴った。そしてついに、ベッドの作成に着手した。

太い竹を土台にし、その上に縦に4つに割った竹を並べる。完璧な作戦だった。しかし、現実はその甘くなく、予想以上の力作業かつ、時間のかかるものであった。そのため、夕飯の支度ができず、調理の必要ない食料以外はベンチャー隊の火を借り、更には余った食事をご馳走になってしまった。時間は多めに見積もったつもりではあったが、それでも他隊の手を借りないといけなかった状況に、本来支援を行う立場として恥ずかしく思った。それでも計画した住居の作成を諦めきれず、二日目はこの作業に全力を注ぐことにした。一日目の夜は星空の下のベッド一つで過ごすこととなったが、それでも構わない。二日目のプランを頭で練りつつ、自作したベッドで眠りについた。

二日目、朝一番に、東光寺にて座禅を行った。住職の方から一通りお話を聞き、15分間の座禅を2セット行った。1回目、心は無にする。しかし、どうしても何か考えてしまう。呼吸の回数のみを数え、10まで数える、途中で他のことを考えてしまったらリセット。これが出来ればお坊さんに向いているらしいが、私は1回も数えられなかった。たとえ1と数えることができて、1回数えられた、ということを考えて、最初からになってしまう。座禅というものはなかなか難しいものであった。

2回目、今度は肩を叩いてもらった。といっても、思いのほか痛くはなく、肩というよりも背筋のあたりを叩く感じで、体がほぐされるような感覚で気持ちよかった。そして、またしても呼吸の回数は1回止まりであった。座禅というものがどういうものなのかを知ることができ、とても良い経験となった。

朝食とセシモニーを済ませた後、すぐに作業に着手した。まずは骨組みとなる太い竹を伐採する。一日目に何本も切っていたため、作業に慣れてきて効率が上がってきた。しかし、こういうものは慣れてきた頃が一番ケガをしやすいため、慎重に作業を進めた。作業開始からおよそ2時間、骨組みを組み立てた。しかし、ここで一つ問題が発生した。角縛りのみだとどうしても不安定になってしまうのだ。私は考え、一つの策を考えた。テントを張る時のようにロープを左右に伸ばし、ペグで固定するのだ。早速実行に移してみると、大成功した。ペグもちろん竹製。即興のアイデアで上手くいくことはとても嬉しく、自己肯定感を得られた。しかし、これだと万が一ペグが抜けたり、ロープが切れたりしてしまった時に倒れてしまい、危険だった。そのため、骨組みも角縛りで補強し、ペグが抜けても骨組みが少し緩むだけで、倒壊はしないように改良した。このように安全対策もバッチリであり、解体前に行ったことであるが、屋根に全体重を乗せても倒壊することはなかった。

次に、屋根の作成に取り掛かった。作戦は、四つ割りにした竹を屋根に並べ、その上に葉を乗せるというもの。片流しの屋根にすることによって、作業のしやすさと排水性を確保した。竹の四つ割りもベッドの作成の時に慣れたもので、作業はかなりスムーズに進んだ。しかし、ここでも一つ問題が発生した。四つ割りでは葉の重量に耐えられず、屋根がたるんでしまう。急遽二つ割りの竹を何本も作り、四つ割りの竹と合わせた。これで強度は上がったが、予想外の作業でまたしても時間が遅れてしまった。それでもなんとか日が落ちる前に作業は終了し、ついに住居が完成した。努力が報われたのだ。森の中に溶け込む拠点といった見た目で、かつてないほどサバイバルをしている実感があった。しかし、余韻に浸る暇は無く、今日こそは他隊の手を借りる訳にはいかない。私は急いで夕飯の支度を始めた。焚き火台は、風車形に一節ほどの長さの竹を並べたものにアルミホイルを敷いた、かなり簡素なもの。それでも、私一人分の朝食を行うには十分であった。メニューは、竹を飯盒として利用した炊き込みご飯。スーパーで購入した舞茸と、朝たままた見つけたタケノコを具材とした。竹の水分が沸騰して染み出してくる。それと同時に、タケノコの食欲をそそる香りが漂ってきた。そして完成した。蓋を開けると、まさに宝石箱と表現するのがふさわしい、完璧な炊き込みご飯ができていた。まずは一口、タケノコと舞茸の風味が口全体に広がる。今日一日の作業を頑張った良かったと感じた。あっという間に完食し、二日目の夕食は大成功に終わった。

その後、ボーイ隊のナイトセッションに参加した後、ついに我が家で寝る時がやってきた。完璧な形と大きさ、落ち着ける雰囲気、安心感。私は大満足であった。二日目はこの最高傑作に包まれ、眠りについた。

三日目、一夜を過ごした我が家との別れの時である。前日に完成したばかりの作品を解体するのは少し気が引けたが、「残すものは感謝だけ」である。解体は早いもので、一瞬にしてバラバラとなった。こうして撤営が完了し、東光寺の住職の方に挨拶に行き、帰宅した。

今回のキャンプにおいて、竹クラフトの経験は楽しさの連続で、学びと技術も得られた。ボーイスカウトで楽しかったキャンプというランキングで考えると、かなり上位に来るほど楽しいキャンプであった。ただ、未経験の作業にかかる時間を甘くみており、他隊への支援を行うどころか、支援をされる側となってしまった。今回行った支援というと、キャンプ地までのスカウトの先導と、月の輪スカウトにちかいとおきてについて教えたこと、セレモニー等の司会のみであった。ローバースカウトとして、今回のキャンプはもっと支援を行うべきであった。原因としては前記の通り、竹クラフトの作業時間が予想よりも掛かってしまったということである。これを反省し、今後初めての挑戦を行う場合は、元々考慮した予備時間に加え、支援を行う時間を確保できるくらい、余裕を持った計画を立てようと思う。

